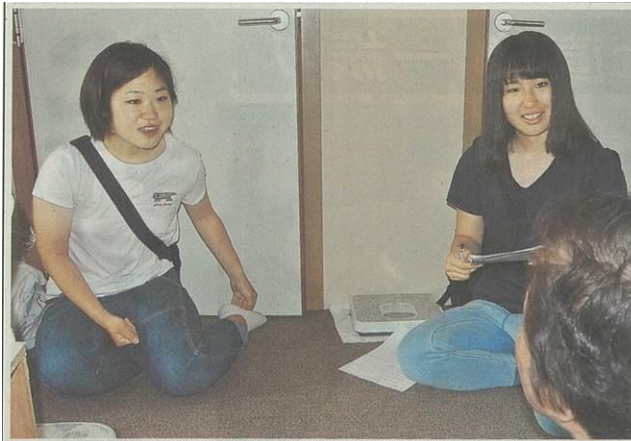


# 民生委員の役割大切

## 八学大生 業務体験、意義学ぶ

**八戸** 民生委員の役割や意義について理解を深めようと、八戸学院大学健康医療学部が3日、八戸市白銀地区で訪問活動などの業務を実際に体験した。学生たちは地区の委員らとともに高齢者などを訪問、お年寄りら社会弱者を見守り支える大切な役目を学んだ。

(若松清巳)



高齢者(手前)の話聞き取る澤尻さん(左)と鬼頭さん(右)

民生委員制度創設100年を機に、若い世代に必要なことを知ってもらうことと市と同大が初めて実施。地域福祉を学ぶ同学部人間健康学科2年の約40人が活動体験や委員との懇談、「子育てサロン」運営体験などに分かれ、実情を学んだ。

この日は学生16人が白銀地区の委員と巡回。澤尻磨里英さん(19)、鬼頭琴音さん(19)は佐々木紀子委員(69)らと高齢者世帯を訪問した。

体が不自由な83歳の1人暮らし女性宅で、澤尻さんと鬼頭さんは「民生委員はどんな存在ですか?」などと質問。「地震はもちろん雨が降っても洗濯物は天

丈夫?」などと連絡をくれる。不安がある中、委員がいるのはありがたい」という女性の話に聴き入った。委員歴13年の佐々木さんは「皆がすぐに心を開いてくれるわけではない。相手と同じ目線になって話しかけて」などと助言していた。スピードスケート選手として国体などで活躍する澤

尻さんと鬼頭さんだが、「こんなに坂が多い地域を歩いて回るなんて体力的な負担は相当」と驚いた様子。民生委員は高齢者にとっても、その家族にとっても心強い。なり手不足が課題と聞いており、きょうの経験で今後の学習に生かしたい」と口をそろえた。

市福祉政策課によると、

同市の民生委員は490人強で、国の基準による定員509人に対して、やや不足している。委員は高齢化が進む一方、次代の担い手が増えない状況で、藤田耕次課長は「民生委員という仕事を若い世代にも広く知ってもらい、担い手確保につながれば」と期待している。